

第1回足立区自転車活用推進計画策定委員会

議事要旨

■日 時：令和5年10月18日（水） 15時00分～16時15分

■場 所：足立区役所8階 庁議室

■出席者：22名（名簿順）

板谷和也委員、松本剛委員代理（代理出席：国分宏樹委員）、島貫浩委員、廣元勝志委員、大根田文雄委員、山下知晃委員、与田伸子委員、久松保文委員、北上達也委員代理（代理出席：大林馨委員）、蝦名正一委員、吉澤一之委員代理（代理出席：前野譽仁委員）、本間晃章委員、下川英季委員、村上和生委員、金子孝一郎委員、坂田光穂委員、上野剛委員、真鍋兼委員、吉原治幸委員代理（代理出席：山中寛委員、茂木聡直委員代理（代理出席：高橋俊哉委員）、荒井広幸委員代理（代理出席：加藤鉄也委員）、岩松朋子委員

■欠席者：4名（名簿順）

米澤暁裕委員、長岡孝浩委員、関肖委員、鈴木健嗣委員

■事務局：5名

須藤純二、長澤友也、松平匡人、高村一幸、前田勝也

■議事次第：

1. 開会
2. 足立区都市建設部長挨拶
3. 委員紹介
4. 資料説明
5. 質疑
6. 事務局からのお知らせ
7. 閉会

■配付資料：

1. 足立区自転車活用推進計画策定委員会名簿（別紙1）
2. 第1回自転車活用推進計画策定委員会次第（別紙2）
3. 足立区自転車活用推進計画策定に向けて（別紙3）
4. 足立区自転車活用推進計画（第一回委員会資料）
5. 自転車ネットワーク計画編（第一回委員会資料）
6. 足立区自転車活用推進計画策定に向けたアンケート調査結果について

■議事要旨：

- ・事務局より配付資料を説明後、以下の質疑があった。

○真鍋委員：

自転車ネットワーク計画編資料P15の図が、見えにくくて全くわからないため差し替えてほしい。また、P19の「荒川・墨田川の路線は」の「墨」の字に誤りがあるため修正してください。（墨→隅）

○板谷委員：

区内在住の者としてコメント・提案させていただきたい。計画作成自体はよいことで、中身の部分でも

あまり修正箇所はないと思う。しかし、計画のどの部分を中心に施策を進めていくのかメリハリをつけたほうがよい。自転車の利用に関しては、「走行環境」、「目的地に着いた時の駐輪場」、「安全安心に移動できるか」の3点が重要なポイントである。駅周辺の駐輪場整備や放置自転車対策は以前から実施しており、一定以上の効果があるため継続してほしい。一方で、走行空間の整備には課題があるため計画を進めてほしい。朝は自転車の走行が多く、結構危ない場面を目にする。事故件数を減らすには、事故原因の詳細な分析（状況、場所、当事者の特徴）が必要であり、その部分について計画の中で掘り下げるべきだと思う。より実効性のある対策をするのであれば、警察の協力もいただきたい。

自転車ネットワーク計画については、幹線道路にある自転車レーンを使う人はいるが、走ってみると結構怖い。車を運転している立場から見ても怖い。車道が狭い路線をネットワーク計画の対象路線としてしまうと、整備しても使われないという課題が出てくると思うため、各地域の状況を把握して、実現性を検討してほしい。幹線だけでなく支線の自転車通行にも配慮が必要である。例として、ゾーン30（現在足立区で20か所）やゾーン30プラス（狭窄、ハンプ）といった交通安全を高める施策があり、それらを組み合わせることで自転車の走行環境を向上させることもできる。

○真鍋委員：

足立区は、民間事業者や交通管理者等にご協力いただき、駅前での放置自転車は少ない状況である。しかし、マナーが悪いのは事実である。区の公聴活動では自転車のマナーが悪いという意見が多く、「区が取り締まってほしい」という声もあり、啓発活動は実施している。苦情や対策としてどのようなものがあるのか、警察の方から教えてほしい。

○久松委員：

苦情や110番の件数は多い状況であり（自転車が起因となった喧嘩など）、啓発活動は実施している。個人的な意見として、自転車の乗り方やマナーに関して、我々50代は小中学校で学んだことがない。足立区では20年前くらいから教育がスタートしており、今の20～30代は教育を受けている。それ以上の教育を受けていない年代、特に高齢者のマナーが悪い状況である。教育、啓発を推進する必要がある、我々は取り締まりを実施していく。国としては法律の改正も検討しているようで、自転車の違反切符適用も進んでいるため、社会に浸透するのを待つしかないと思う。危険性が高く、違反場所の多いところを重点的に取り締まるが、ほかの場所でも取り締まりを進めていく。

○蝦名委員：

綾瀬警察署管内では、通勤通学時のマナーが悪い。「一時停止」、「信号を守らない」、「右側通行」の苦情が多い。特に、ママチャリで子供を保育園に送り、職場へ向かうという方のトラブルが多い。

取り締まりについては、悪質で迷惑性の高い行為（一時不停止、信号無視、右側通行）の取り締まりを実施しており、今年は去年の倍以上の取り締まり件数になっている。自転車の取り締まりについては、様々な利用実態がある中で、不公平じゃないかとの意見もある。また、自転車には免許証がないため、ルールを学ぶ機会がなく、子供には切符を切らないのかという意見もある。一部報道では、ほかの違反と同様に違反切符を切れるようにしようという案が来年国会で出ると報じられた。

○真鍋委員：

世の中注意をして自転車に乗っている人が全員ではないので、マナー啓発に関しては継続して実施していかなければならない。ほかの方で、こんなものがあつたらよいなという案があれば伺いたい。

○岩松委員：

20代～30代は交通安全の教育を受けている話があつたが、アンケートの分析で年代別での分析は実施する予定なのか。その分析によって、目指すべき施策は年代別に異なってくると思うがいかがか。

○事務局：

年代別での分析は実施する予定である。高齢者に対しては、住区センターや各種教室の活動の際にマナー啓発等を実施しているが、なかなか響いていない状況かと思う。コロナ以前の交通対策課長を勤めていたときは、公園で交通安全教室をしていた。様々な機会をとらえて、新しい体験等をしていただいて、理解しやすいような機会を設けるよう、施策に盛り込んでいきたい。

○真鍋委員：

金子委員にお聞きしたいのだが、障害がある人、例えば耳や目が不自由な人にとって、自転車はこういったところに注意してほしいという意見があれば教えてほしい。

○下川委員：

高齢者の話として、高齢者は自転車を使うことはあまりなく、バスや鉄道、歩きが主要な交通手段である。元気な方であれば自転車に乗るが、町内2～3kmくらいまでの移動に限られる。安心して自転車に乗るには、自転車専用道路を整備するとよい。それは脱炭素にもつながると思う。

高齢者は住区センターによく行くため、交通安全教室の場としてよいのではないか。町会によく絡んでいる・活躍している高齢者が多いので、町会での交通安全教室の実施も考えられる。アンケートを見ると、一番怪我をする・死亡事故件数が多いのは高齢者であり、それだけ素早い動きができない状況である。

自転車盗について、足立区は世田谷区とワーストを争っているようで、自転車に乗るときは、しっかり鍵をかけて、イメージアップのお手伝いができればよい。

○真鍋委員：

自転車盗の話も出たが、速報で刑法犯認知件数は23区で下から3番目。順位争いをするのはよいとは言えないが、自転車盗を1台でも多く減らしたい。金子委員いかがか。

○金子委員：

目の見える人は交通ルールに従うことはできるが、視覚障害者に関しては、昔放置自転車が竹ノ塚駅周辺にいっぱいあって、視覚障害者誘導用ブロック上にも放置されていて歩けなかったが、十分な駐輪場を設置したら改善した。マナーはしっかり守ってほしい。また、自転車の速いスピードで歩道を突っ切るのは特に視覚障害者には危険である。

○村上委員：

確認とお願いがある。自転車通行区間ネットワーク候補路線について(P21)、荒川沿いに点線があるが、都道449号線のことか。

○事務局：

現状としては、449号線になると思う。当該路線は都市計画道路であり、都の整備(自転車専用通行帯等)にあわせて整備していきたい。

○村上委員：

都内で違法なフル電動自転車をよく見にする。こがないタイプの自転車で歩道を30km以上で走っているため、取り締まりをお願いしたい。子供などにあたると死亡事故につながるため、よく観察していただきたい。

○真鍋委員：

草加市でもよく見かける。質問だが、オープンストリートの現状や今後の見通し(利用を増やしていきたい等)について教えていただきたい。

○本間委員：

足立区での利用はステーションの増加とともに好調である。昨年度2万回の利用であったのが、今年度は4万回近くの利用で倍になっている。今後も増えてくると感じている。

○真鍋委員：

駅周辺だけでなく、区内の大学にもサイクルポートが設置されており、平坦な足立区では自転車を利用するのにもってこいな環境である。安全に活用されるように、マナーも含めてハード・ソフト両面を連携してやっていかなければならない。

○本間委員：

区営駐輪場の予約待ちの話があったが、シェアサイクルが混雑緩和に寄与しているのか、相関性を見ていければ、シェアサイクルの有効性などがわかるのでおもしろい。

事故に関して、子供の事故が多いとあったが、私はリモートワークを実施しており、ゆったり子供の送迎ができていますが、オフピークを進めている企業もあり、そのような企業の増加を推進し、従業員の余裕をもたせることで、事故も減らせるのではないかと。

○上野委員：

結論は、マナー・ルールを利用者が取得しないと解決しない。P30の免許証交付はよい案である。子供にとっては認めてもらったということになり、やる気につながる。これを持続させなければならない。お母さんがルールを守らないことが多いため、一緒に教育する機会があるとよい。中学高校生は、並列など、ダラダラ運転が多いので、学生時代に徹底的に教育するべきである。

○真鍋委員：

若いころからのルール教育はおっしゃるとおり重要である。

○松本委員代理：

毎年東京都が主体となっている駅前放置自転車クリーンキャンペーンが、10/22～10/31の10日間で実施される。当社においても各駅で自治体と協力して声かけをしている。これらの取組は継続してやっていきたい。

○真鍋委員：

皆様のご意見、ありがとうございました。皆様のご意見を踏まえて、次回以降の策定委員会につなげていきたい。また、今後も気が付いた点等があれば、事務局にご連絡いただければ、できる限り計画に反映させていきたい。事務連絡を事務局よりお願いします。

○事務局：

今回の議事内容については、後日皆様にお送りいたしますので、内容のご確認をお願いいたします。次回の策定委員会は1月10日（水）10時からで、特別会議室での実施を予定している。開催通知をお送りしますので、ご出席をお願いいたします。

以上